アジアとヨーロッパを融合するベトナムの現代音楽

グエン・ティエン・ダオの世界

レクチャーコンサート：世界音楽入門Ⅲ

2012年9月29日（土）

17：00開演（16：30開場）

国立オリンピック記念青少年総合センター小ホール

主催／一般財団法人知と文明のフォーラム
共催／フォニックス・プロモート
協賛／ヤマハ株式会社
協力／株式会社コマキ楽器　株式会社ブルーマレット
ヤマハエレクトーンシティ渋谷　ヤマハミュージック東京株式会社
ヤマハミュージックトレーディング株式会社
後援／在日ベトナム大使館　日本現代音楽協会

助成＝公益財団法人野村財団

近代の枠を超えるアジアの音楽
北沢方邦

一般財団法人知と文明のフォーラムが主宰するシリーズ「世界音楽入門」そのⅢとして、ベトナム出身で、現在フランスを中心に活躍する作曲家グエン・ティエン・ダオさんを招待し、彼の作品のコンサートを行うこととなった。

ベトナムは中国やインド文明などの強い影響を受けながらも独自の奥深い文化を築きあげ、きわめて魅力的な諸芸術を生みだしているが、その伝統を踏まえ、それを現代の音楽言語によって表現するダオさんの音楽は、近代の枠を超えたアジアの新しい英知と音楽の風を伝えてくれる。

東日本大震災を悼み、心魂を傾けて作曲した彼の鎮魂曲《INORI 3.11》の世界初演や、日本を代表する作曲家のひとりであり、同じく近代の枠を超える音楽を創りだしている西村朗さんとの対談などを含め、このコンサートは日本の音楽史に歴史的な一頁を書き加えることになるだろう。

プログラム

レクチャー

北沢方邦　ベトナムと日本の文明的・音楽的絆

演奏

ＩＮＯＲＩ ３・１１ 世界初演

―― ソプラノとパーカッションのための ――

対談 その１

グエン・ティエン・ダオ＋西村朗

演奏

ジオ・ドング（ＧＩＯ　ＤＯＮＧ）

―― ヴォイスのための ――

休憩

対談 その２

グエン・ティエン・ダオ＋西村朗

演奏

打楽器協奏曲 テン・ド・グ（ＴＥＮ　ＤＯ　ＧＵ） 日本初演

―― パーカッションとオーケストラのための（エレクトーンバージョン） ――

演奏者

上野信一　パーカッション
奈良ゆみ　ソプラノ
内海源太　エレクトーン

司会：宇野淑子
フランス語通訳：高野勢子

オリヴィエ・メシアンの手紙から
ダオは、わたしたちの時代のもっとも独創的な作曲家のひとりである

わが親愛なる師にして友よ、

グエン・ティエン・ダオについて一筆。

新しいオペラ―ステュディオ（オペラ・コミック座）で彼の作曲したオペラを上演しそうだということを知りました。

嬉しく思うとともに、あなたにも祝福もうします！

おそらくすでにご存じでしょうが、かつてダオは、コンセルヴァトワールのわたしのクラスで最優秀賞をとりましたし、メシアン・コンクール（アムステルダムのエラスムス賞により開催されております）でもまた、最優秀賞を獲得しました。

しかし、それだけではありません。わたしがダオをこう見なしていることも知っていただかなくてはならないのです。

つまり、ダオはじつに偉大な音楽家であり、わたしたちの時代のもっとも独創的な作曲家のひとりだと！

何年か前、わたしは大オーケストラ用の彼の作品《コスコム Koscom（宇宙共同体）》を聴きました。強い衝撃を受けました。

そして、これ以後彼の書いた作品も、この最初に抱いた驚嘆の念をいよいよ強めるばかりなのです……。

一九七八年二月一七日

オリヴィエ・メシアン

ロルフ・リーバーマン（一九一〇‐一九九九。スイスの作曲家。一九七三年から一九八〇年までパリのオペラ座のディレクターを務めた）への手紙（片桐祐訳）

ベトナムと日本——その文明論的・音楽的絆

北沢方邦

ベトナムと弥生人

日本人のルーツが話題になることがある。最新の人類学的知見によれば、北方系の縄文人が定住したかなりのち、縄文時代の末期に、現在のベトナムあたりから島伝いに北上してきた弥生人が稲作文化をたずさえて移住し、混血が進んだとしても、しだいにそれが日本列島の主流文化や言語となっていったとされる。

中国文明の影響

同じモンゴロイドではあるが、現在のベトナムのひとびとは言語や文化は異なる。しかし文明史的にはベトナムと日本は太い絆で結ばれているといってよい。なぜなら東南アジアに位置しながらベトナムは、朝鮮半島や日本と同じく中国文明の大きな影響下に独自の文化を築き、はぐくんできたからである。

国字改革でローマ字を採用するまえは漢字が使用され、日本や韓国同様、中国由来の多くの単語が言語表現を担っていた。隣のラオスやカンボジャの仏教はインドから渡来したテラヴァーダ（南方系）仏教であるのに対して、ベトナムはわれわれと同じチベット・中国経由の大乗（マハーヤーナ）仏教である。ただ南北に長いベトナムでは、北と南の文化はかなり異なっていて、南は中世に、人種も異なるヒンドゥー教のチャンパ王国が栄えたため、インド文明の影響も色濃く残ってはいるが。

日本との交易

また徳川鎖国まではベトナムは日本にとって主要貿易国のひとつであり、ベトナムの港にはいつも日本の千石船が何艘も碇を降ろし、交易をいとなむ日本人町も建設され、賑わっていた。

ベトナムと日本の太い絆はそれだけではない。芸術とりわけ音楽は、目にみえない糸でベトナムと日本を結んでいる。

雅楽にベトナムの舞曲

たとえば日本雅楽——中国・韓国・ベトナムの雅楽は儒教の儀礼音楽であり編鐘や編磬など打楽器を主体とする金石鐘磬之楽である——に「林邑楽（いわばジャングル地帯の村の音楽）」というジャンルがあるが、それは唐の時代に中国に渡来したベトナム舞楽にほかならない。代表曲『陵王』は、ベトナムのある王が優男で敵に侮られていたが、龍の仮面をつけたところ連戦連勝した故事を舞いにしたものである。剣を手に舞う武舞（ヴォ・ヴ）であり、ベトナムでも文舞（ヴァン・ヴ）と対になっている。

ダオ作品の根源

それをみれば、ベトナムと日本でなぜ雅楽や舞楽で「呂」が忌避され、「律」だけが好まれたのか、という謎を解くことができる。民謡や民俗音楽、つまりそれぞれの種族のもっとも深い音楽文化に類似する中国旋法のみが選ばれたのだ。

われわれがベトナムの民謡や民俗音楽に接するとき感ずるたとえようもない懐かしさは、このことに由来する（稲作主体のベトナムの農村風景が呼び起こす感情とまったく同じである）。この深い絆であるベトナムの音楽的伝統をしっかりと踏まえ、それを現代の音楽言語で表現するグエン・ティエン・ダオさんの作品が、われわれの魂をゆさぶるのも当然であるといえよう。

旋法は日本と酷似

また音楽の形態や様式は異なっていても、その底にひそむ音そのものが日本との親密な絆を示している。

たとえばベトナムの伝統的な古典音楽では、北（バク）の旋法は日本雅楽の「律」（ド・レ・ファ・ソ・ラ・ド）とよばれる旋法とまったく同じであり、中国の影響が強かったにもかかわらず、日本同様、中国でもっとも重要視される「呂」（ド・レ・ミ・ソ・ラ・ド）の旋法は皆無である。また南（ナム）のそれはレとラが増2度となるが、これをミとシのフラット（変音）つまり短3度に読み替えれば、日本民謡のいわゆる「田舎節」と同一であることがわかる。その他古都フエの旋法は日本の「都節」に酷似した半音を含む五音音階である。

INORI 3.11

歌詞

Ⅰ　Harunohini　春の日に

Hisakatano hikarinodokeki harunohini, shizukokoronaku hananochiruran
Kino Tomomori
ひさかたの　光のどけき　春の日に　しづこころなく　花の散るらむ
紀友則

Ⅱ　11-3-11　2011 年 3 月 11 日

Devil Foudre Thunder(Tonnēre) Weinen (Pleurer) Sturm(Tempête)
Wotan Shiva Soudain Trời long d'ât lở²(Ciel éclaté Terre fracassée)
Wasser(Eau) Himmel(Ciel) Séisme Soudain Foudre Shatter(Briser)
Suddenly(Soudain) Fukushima Séisme Tsunami Éclair Wasser(Eau)
Weinen(Pleurer) SâmSặp(Fracassée) Sặp (Fracas) Suddenly(Soudain)
Devil Tonnēre Tsunami Daihôñgthu²y(Grand deluge)
Rape(Viol) Foudre Shiva Hiroshima.

大災害に関する言葉の数々（フランス語、ドイツ語、ベトナム語）

Ⅲ　Namida　涙

Omoiwabi satemoinochiha arumonowo　ukinitaenuha namidanarikeri
Douin Housi
思いわび　さても命は　あるものを　憂きに堪へぬは　涙なりけり
道因法師

Ⅳ　INORI　祈り

Em ði em ði ánh dúòng hôñg nhú bêń xuān
Mang vê¯ niêḿ tin mûng xuân vê¯ vòí ai
Ā ði ā ði
Em ði em ði ánh dúòng hôñg dang nhń bĕn suôí reo
Tiêńg hót chim hōang ank mûng xuân vê¯ vòí ta
Mûng xuân vê¯ vòí ta
Ā ði ā ði

愛しき者よ！　暁の光が春の河岸に姿をみせる
希望と春を運んできておくれ
愛しき者よ！　暁の光がせせらぎのそばに姿をみせる
鶯の歌声が春を運んできてくれる

プログラムノート

グエン・ティン・ダオ（片桐祐訳）

INORI 3・11

ソプラノとパーカッションのための（二〇一二）

二〇一一年三月一一日の東日本大震災の犠牲者へのオマージュである。四つの楽章から成る。

第一楽章　春の日に

古い日本の和歌を音楽にした。春を表現する。

第二楽章　二〇一一年三月一一日

フランス語、ドイツ語、ベトナム語の言葉に合わせて、皮革を用いたパーカッションがピアニシモから爆発するようなフォルテシモまで移行して、破壊を表現する。

第三楽章　涙

古い日本の和歌を音楽にした。葬送行進に近いものによって喪を表現する。

第四楽章　祈り

作曲家本人によるベトナム語テキストをもとにする、祈り・子守唄である。

ジオ・ドング（GIO　DONG、東風）

ヴォイスのための（一九七三）

一四世紀から今日までのベトナム文学の抜粋を集め、ヒューマニズムの角度から東洋と西洋の発声技法を組み合わせることによって、声のさまざまな可能性を切り開こうとする。奈良ゆみは、おおきな舞台存在感を発揮しつつ、この曲の自在な解釈を引き出した。

打楽器協奏曲　テン・ド・グ（TEN　DO　GU）

パーカッションとオーケストラのための（エレクトーンバージョン）（一九八〇）

フランス放送委嘱作品。この協奏曲の性格は、叙事詩的であるとともに、技巧的なものでもある。一九八〇年のパリ国際パーカッション・コンクールの課題曲にも選ばれた。

出演者プロフィール

□ グエン・ティエン・ダオ
Nguyen Thien Dao

一九四〇年ベトナムのハノイ生まれ。フランス在住。六三年よりパリ国立高等音楽院でメシアンに学び、首席卒業。オリヴィエ・メシアン賞(七四年)、アンドレ・カプレ賞(八四年)等、受賞歴多数。またその作品は、ラジオ・フランス、パリ・オペラ座、フランス・ナショナル・オーケストラ、ハノイ・ベトナム・オーケストラ、その他国際的な音楽祭等で初演されている。当初から、ベトナムや中国の詩に着想を得た、東洋と西洋の融合をイメージさせる作品が多い。現代音楽の技法に忠実に従いつつ、豊かな叙情性と情熱をはらむ力強い作風を特徴とする。今回日本で初演されるコンチェルト《テン・ド・グ》(八〇年)は代表作のひとつであるが、その他にも第二次世界大戦中のユダヤ人虐殺をテーマにしたオペラ《イジェの子供たち》(九三年)など、歴史的事実を題材にしたダイナミックな大曲も多い。近年、ハノイでの新作初演、ベトナム映画《パオの物語》(二〇〇八年)音楽担当など、ベトナムと西洋音楽との融合を意識した仕事が増えている。

□ 北沢方邦(きたざわまさくに)

桐朋学園大学教授、信州大学教授、神戸芸術工科大学・同大学院教授を経て、現在信州大学名誉教授。音楽社会学の著書に『メタファーとしての音』(新芸術社)、『北沢方邦 音楽入門』(平凡社)など。科学認識論関係の著書に『知と宇宙の波動』(平凡社)、『近代科学の終焉』(藤原書店)など。構造人類学関係の著書に『天と海からの使信』(朝日出版社)、『日本神話のコスモロジー』、『歳時記のコスモロジー』、『古事記の宇宙論』(いずれも平凡社)、『感性としての日本思想』(藤原書店)など。翻訳書に『失われた歴史』(マイケル・ハミルトン・モーガン著、平凡社)など。哲学・思想、現代日本や世界の政治情勢、古今の音楽、健康問題など、幅広い内容を鋭く解き明かす語り口には定評がある。

□ 西村朗(にしむらあきら)

東京芸術大学卒業、同大学院修了。現代日本の作曲界を牽引する作曲家。エリザベート国際音楽コンクール作曲部門大賞やルイジ・ダルッラピッコラ作曲賞を受賞するなど、海外でも高い評価を得ている。近年の受賞は、エクソンモービル音楽賞(二〇〇一年)、第三回別宮賞(〇二年)、第三六回サントリー音楽賞(〇四年)、第四七回毎日芸術賞(〇五年)、第五六回・第五九回尾高賞(〇八年・一一年)等。〇二年度芸術祭大賞に《アルディッティSQプレイズ西村朗(西村朗作品集五)》が、〇五年度芸術祭優秀賞に《メタモルフォーシス・西村朗室内交響曲》が選ばれる。現在東京音楽大学教授、いずみシンフォニエッタ大阪の音楽監督。

写真=©東京オペラシティ/撮影 大窪道治

□ 上野信一(うえのしんいち)

国立音楽大学首席卒業。フランス国立音楽院連合コンクール最上級課程一位、パリ現代音楽コンクール打楽器部門特別賞など受賞歴多数。ストラスブール・フィルハーモニー打楽器奏者、国立トゥールーズ・キャピトル管弦楽団首席打楽器、ティンパニ奏者を歴任。帰国後はソリストおよびパーカッショングループ「フォニックス・レフレクション」の主宰者として日本の現代音楽の新作初演を多数行う。国際打楽器大会(PASIC)および同欧州パリ大会(二〇〇七年)など、海外での演奏も好評を博している。CD《プサッファ》《花の世界(高橋悠治とのデュオリサイタル・ライブ)》(共にムジカ・ヴィヴァンテ)など。国立音楽大学、同附属音楽高校非常勤講師。http://www.phonix.nows.jp/

□ 奈良ゆみ(ならゆみ)

相愛女子大学(現在相愛大学)声楽科卒業後、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に入学、メシアンに注目される。以後、パリを拠点としてヨーロッパ各地で盛んな演奏活動を展開。色彩感に溢れた声と創造的な表現力は、とりわけ現代音楽の分野で注目を集め、ブーレーズ、シノーポリ、エトヴォスなどと共演を重ねている。パリ・バスティーユ・オペラ座で演奏されたメシアンの《ハラウィ》、シェーンベルク《月に憑かれたピエロ》、ラヴェル《シェヘラザード》などが高い評価を受ける。またバスカル・デュサパン、グエン・ティエン・ダオ、松平頼則、平義久をはじめ多くの現代作曲家が彼女に曲を捧げている。

□ 内海源太(うつみげんた)

国立音楽大学応用演奏学科卒業。国内外におけるソロ活動を軸に、ボーダレスかつ斬新な企画・構成のもとに活動。夏田昌和、土田英介、千住明、猿谷紀郎の作品をはじめ数多くの現代作品の初演、古川展生(Vc)や奥村愛(Vn)など様々なアーティストとのコラボレーション・ライブ、その他全国各地のイベント参加、音楽制作など、活動の幅は広い。繊細さと大胆さを兼ね備えた音楽表現、類まれなる超絶技巧は、聴く者を魅了してやまない。一九九三年第三〇回エレクトーン・コンクール、グランプリ受賞。同年、シンガポールで行われたエレクトーン・フェスティバル、最優秀賞受賞。

YAMAHA GINZA

いつも感動に出会えるYamaha GINZA

Floor Information

10階～12階	ヤマハミュージックアベニュー銀座（大人の音楽教室） Tel:03-3571-4094	3階 SHOP	楽譜・音楽書・五線紙 Tel:03-3572-3136
7階～9階	ヤマハホール Tel:03-3572-3139	2階 SHOP	CD・DVD・楽譜 Tel:03-3572-3135
6階	ヤマハ銀座コンサートサロン	1階 ポータル／SHOP	エレクトーン・電子ピアノ Tel:03-3572-3162
5階 SHOP	ピアノ・アビテックス（防音室） Tel:03-3572-3132 ◆ピアノ技術・調律 Tel:03-3572-3101	地下1階 SHOP	ギター・ドラム・デジタル楽器 Tel:03-3572-3422
4階 SHOP	管楽器・弦楽器・打楽器 ◆管打楽器 Tel:03-3572-3134 ◆弦楽器 Tel:03-3572-3188 ◆管リペア工房 Tel:03-3572-3421	地下2階	ヤマハ銀座スタジオ

ヤマハ銀座店
http://www.yamahamusic.jp/shop/ginza
〒104-0061 東京都中央区銀座7-9-14 Tel:03-3572-3171(代表)
〈営業時間〉11:00～19:30 〈定休日〉毎月第二火曜日
ヤマハミュージックアベニュー銀座 アネックス
〒105-0004 東京都港区新橋2-19-3 Tel:03-3571-8100

● 東京メトロ銀座線/丸の内線/日比谷線の銀座駅 A3出口より徒歩約4分
● 都営地下鉄浅草線新橋駅、東銀座駅より徒歩約7分
● JR線新橋駅より徒歩約7分、有楽町駅より徒歩約9分

YAMAHA
感動を、ともに、創る

bluemalletは
打楽器・楽譜の販売をしています。

ティンパニ・スネアドラム等
打楽器のメンテナンスも承っております。

ご質問、ご要望等ありましたら、
お気軽に下記のメールからご相談下さい。

bluemallet
PERCUSSION SHOP

http://www.bluemallet.com
info@bluemallet.com

ブルーマレット株式会社
176-0024 東京都練馬区中村3-31-8

〈美ェトナム〉讃

高島史於

ベトナム人を形容して、よく竹に例えます。彼らの忍耐強さと不屈の精神を、しなやかで強靭な竹に照らし合わせたものです。

良い例が、ベトナム戦争当時に掘られた、総延長二五〇キロに及ぶ地下トンネルです。クチで取材した折、二月にもかかわらず、湿気と高温で二〇分といられませんでした。トンネル内には会議室や宿泊施設などがありました。そして、トンネルは、当時の米軍基地のタンソンニャット空港の真下まで掘られていたのですから驚きです。

南北に細長いベトナムの山岳地帯を、ハノイからバン・メ・トートまで、戦時中に兵士や物資を運んだホーチミン・トレイルが貫いています。トレイル、獣道と言うほど、敵に見つからない様に行軍するのですから、どれほど大変だったか想像がつきます。そして、勝利を手にした訳ですから、「不屈」以外の何物でもない気がします。

その中部山岳地帯で魅せられたものに、少数民族の高床式住居の巨大な「ニャ・ロン」と呼ばれる集会場があります。高さ、大きさもさることながら、内部の竹で編まれた精緻な模様は、伝統に育まれた手仕事の器用さを物語っていました。

少数民族の竹籠の美しさも見逃せません。籠の形で何族かが分かると言うのです。又、民族衣裳でも同様の事が言えます。

フラワーモン族の衣裳の様に、艶やかな色彩には目まいを覚えるほどです。又、民族衣裳を代表するアオザイ。腰まで切れ込んだスリットは、なまめかしく、歩く度に揺れる裾の優雅さは、美女を一層美しく見せています。

この他にも、サパの棚田、竹で編んだお椀型の籠舟「トン」、伝統楽器の竹琴「トルン」、ハロン湾の景色など、美しいもの、好きな物には事欠きません。ですが、「美」は、色や形だけではありません。

ベトナム人の人あたりの良さは格別です。オーガニックな生活が生きているのも嬉しい事です。そして何よりも相互扶助の精神を忘れない「心持ち」の美しさは、無形の美と言っていいでしょう。

会場ロビーにて開催
高島史於写真展《美ェトナム》

ニャ・ロン

連絡先＝一般財団法人知と文明のフォーラム　chitobunmei@gmail.com　　デザイン /ryoku yonekawa